

第6回日本医療安全学会学術総会  
2020年3月7日(土)～8日(日) 3月27日(金)～31日(火)  
~~東京大学本郷キャンパス~~ インターネット上



第6回日本医療安全学会学術総会  
会期: ~~2020年3月7日(土)～8日(日)~~  
会場: ~~東京大学本郷キャンパス~~  
ホームページ: <http://jpscs.org/6thJPSCS/>

2019年6月

## ご挨拶

共同総会長挨拶

稲田英一

順天堂大学医学部麻酔科学・ペインクリニック講座 主任教授



医療は日々進歩している。新しい薬品の開発や、診断や治療に用いられる医療機器の発達により、高度な医療が胎児から100歳を超える高齢者まで広く行われるようになってきている。以前は手術適応にならなかった患者さんたちの治療も、内視鏡手術やロボット支援下手術、粘膜下剥離術、ステント挿入術など侵襲性の低い手術法の開発により多く行われるようになってきている。しかし、副作用がない薬物はないように、合併症を起こさない侵襲的手技はない。検査をしても、偽陽性の場合もあれば、偽陰性の場合もある。検査をしても、適切な患者に当てはめて解釈をしなければ、誤った診断や治療につながる。そして、人は間違いを犯すものである。医療は、誤りから学びながらそれを防ぐための方策を編み出してきた。ガイドラインの作成もその一つである。しかし、それを遵守しなければ意味はない。高い生産性が求められる中、あるいは習慣から、ルールを守らないこともあり得る。限られた時間の中で情報を収集し、解釈し、判断し、的確な手法を用いて、その患者にあった最良の治療を行うことを常に志さなければならない。医師や看護師、薬剤師、臨床工学技士などの専門的なトレーニングの中で、医療安全の文化についての教育は重要である。医療が複雑化し、患者が重症化する中、多職種の協力なしには安全で質の高い医療は行えない。

医療安全の文化を確立するためにはどうするか、いかにその伝統を引き継ぎ、さらに進化させる医療人をはぐくむかは、医療安全のレガシーとして極めて重要なものである。本学術総会では、医療関係者、行政官、そして患者さんたちの知恵を集めて、医療安全の文化について考えていただければと望んでいる。

共同総会長挨拶

秋野 裕信

福井大学医学部附属病院医療環境制御センター  
医療安全管理部教授



このたび、第6回日本医療安全学会学術総会の共同総会長に選出され、担当させていただくことになりましたので一言ご挨拶を申し上げます。わたしが初めて本学会学術総会に参加したのは第2回が初めてでした。その際に行政の立場の方を含めた多方面、多職種の方々からのお話を伺い、医療安全の幅の広さに感銘を受けたことを記憶しています。その後、本学術総会で医療ガバナンス、高信頼性組織、チームステップス、ノンテクニカルスキルの重要性など、数多くのことを学ばせていただきました。

第6回学術集会のテーマである「医療安全の継承 - 安全を創る・人をはぐくむ」は、医療安全文化を継続して発展させ、医療安全文化を醸成させて行きたいとの気持ちから生まれたものです。医療安全（患者安全）の普遍化がなされ、すべての医療機関・医療者にとって医療安全が当然のこととなれば、後継者の育成も必要なくなるのかも知れません。しかし、残念ながら現在はその過程にあると言わざるを得ません。第6回学術総会が医療安全文化の醸成を目指す後継者育成に貢献できるようにして行きたいと思います。また、一般演題やポスターでは日頃の活動や研究の成果を発表していただき、実りある総会になるように皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

共同総会長挨拶

新村 美佐香

横浜メディカルグループ 医療安全推進部部長

医療法人五星会菊名記念病院 医療安全管理室室長



この度、2020年3月7日（土）から2日間にわたり開催されます第6回日本医療安全学会学術総会の共同総会長を、稲田英一先生、秋野裕信先生とともに担当させていただくこととなりました。

今回の学術総会のテーマは、「医療安全文化の継承 ―安全を創る・人をはぐくむ―」としています。医療安全は、ここまでやれば良いとか、ここまでやったら終わりということではなく、常に推進していくことが求められます。そのためには組織が一丸となって取り組み、医療安全文化を醸成していくことが大切です。しかしながら多くの医療機関において、医療安全文化を醸成していくことは容易ではありません。

強いリーダーシップの基、多くのスタッフを巻き込みながら、医療安全の芽を育てていく必要があります。そしてその芽を摘むことなくさらに大きく育て、次の世代へ継承していくことが大切です。

日本医療安全学会は、“多職種による患者安全推進”に取り組んでおり、「多職種」でのかかわりが重要だと考えております。今回の学術総会においても「多職種」の視点を取り入れ、組織においてどのように安全を創り、安全にかかわる人を育てていくかについて、皆様と共に考え共有していく場として、基調講演、教育講演をはじめ多くのパネル討論会を企画しております。参加された皆様の、実りのある学術総会にできればと考えております。多くの皆様方のご参加を、心よりお待ち申し上げます。